

1. はじめに

我国の水道普及率は96.7%（2002年度末）に達しており、2002年4月に改正水道法が施行され、さらに2004年4月には水質基準の改定がなされる予定である。このように、量的拡大から質的向上に移行する状況下で、JFEエンジニアリングが対応する技術も変革が求められている。

本稿では、これら時代のニーズに合致した浄水過程における新しいプロセスである「膜ろ過技術」および浄化された飲料水を貯蔵する「既設コンクリート製配水池内張り更生工法」について紹介する。

2. 水道分野における膜ろ過技術

当社は、1991年度より継続実施されているナショナルプロジェクト「MAC21計画」、「ACT21計画」および「e-Water計画」などに積極的に参画し、従来法である「凝集沈殿＋砂ろ過」に変わる新しいプロセスとして「膜ろ過法」の技術を開発し、拡販している。

Table 1に当社の膜ろ過装置に関する概要を示す。当社の膜ろ過装置は、濁質除去からクリプトスポリジウム除去、さらには高度処理対応までニーズに応じた商品群を取り揃えており、(財)水道技術研究センターの水道技術支援事業規定に基づく「水道用膜ろ過装置認定」を取得し、信頼性の高い技術であると評価されている。

膜ろ過装置	膜ろ過装置	膜ろ過装置
膜ろ過装置	膜ろ過装置	膜ろ過装置
膜ろ過装置	膜ろ過装置	膜ろ過装置
膜ろ過装置	膜ろ過装置	膜ろ過装置

3. 既設コンクリート製配水池

3.1 概要

既設コンクリート製配水池内張り更生工法は、ステンレス鋼板を内張りすることにより、配水池のコンクリート劣化による漏水補修ならびに配水池本体の耐力補強に有効な工法であり、以下に述べる種類と特徴を有する。

P&F工法 (pinshoot & fillet welding) および HAI ビーム

工法は、内面防水材にステンレス鋼板を採用し、完全な止水性確保とメンテナンスフリーを実現する技術である。

。 b”

する技術である。

3.2 実績例

Photo 1に容量7000m³のRC配水池内外部補修工事におけるステンレス内張り工事完工時の外観を示す。

4. おわりに

膜ろ過装置については、幅広い顧客ニーズに対応すべく

Table 1 The outline of membrane filtration